# 第20回　サバニ帆漕レース（参加者向け）説明会　議事録

日時：平成31年4月25日　19時～21時

参加者：事務局（敬称略）谷口洋碁　三田勇樹　玉代勢祐希　添畑薫　塩澤朋子

参加チーム　22チーム　　３４名

司会：産業観光課の三田です。本日は課長の糸嶺が業務の都合により参加できませんので、私のほうから説明させていただきます。

まず皆様にお渡した資料の確認をしたいと思います。参加申込書、資料、トラックトラック（トラッキングシステム）の説明書になります。

開催までの主な日程を簡単にご説明しますと、レース出艇の受付は5月10日（金）～6月10（月）の一か月間となります。申し込み締め切り、期日の厳守をお願いします。

昨年同様、期日を過ぎた場合は出艇料プラス5,000円追加となりますので、ご了承いただきたいと思います。

次に参加サバニ艇の運送日程について、6月17日～6月26日に設定しております。参加申込書の4枚目（様式２）が、サバニ艇搬送依頼書です。例年、搬送ご希望日が重なる場合が多く、ぎりぎりになると当然、込み合うという状況が重なります。安全性のためにも搬送は一日上限5艇までにしたいと運送業者のほうからも申し出があり、今年からご希望日を2日書けるようになっていますので、なるべく分散して日程を組みたいと思います。1日5艇という条件下では、ご希望に添えない場合もありますが、ご了承頂けますようお願い致します。皆様にはご協力のほど、よろしくお願いいたします。

尚、依頼書でもあらかじめお断りしていますが、6月22日（水）は座間味ヨットレースのための運送はお休みになります。

実施要項の内容ですが、昨年と大きく変わることはありませんので、各自ご確認ください。続いて、座間味港での伴走船などの停泊可能な場所を説明します。イラストにありますように、赤い舟の形のところが停泊可能なところです。村内の船も多く停泊しておりますので、お互い気を付けて、ご協力ください。

次に伴走艇の船長へのお願い（資料２）について、読み上げます。特に、4番のフィニッシュ後、那覇港湾内に入港する際には周囲の状況に十分注意してください。

レースは29日マリリンカップは30日、本レースとなります。

毎年、レースに参加するのに、フェリーなど連絡船の予約が取れないとのご意見が多く寄せられておりましたので、マリリンカップ当日、29日の9時発高速船一便は50席、10時発フェリーは200席、実行委員会としてご用意しております。

但し、ダブって予約する例が多く発生しておりますので、気を付けて予約を取ってください。

この2件の予約につきましては、「サバニ帆漕レースに参加します」と申しでてください。

ご予約の際は、必ずチーム名と艇長名を入れ、そのうえで人数を入れてください。

その他の便でおいでになる方は、其々ご自身でご予約頂けますようお願い申しあげます。

マリリンカップのみに参加される方への、説明。

「様式1」の参加申込書の参加内容にマリリンカップのみと記入も可です。改めて実行委員会のほうにご連絡いただいてもかまいません。コースは昨年同様となります。

再び、参加申込書の説明、提出書類の確認。それぞれ記入漏れの内容にお願いいたします。艇長名、必ず連絡が取れる連絡先などの記入は必ず、絶対にお忘れなくお願いします。

ゴールデンウイーク、連休中の、お申込みについてのお問い合わせに関しましては、観光協会の業務の都合上、文書での質問にてお願いできればと思います。ご協力お願いいたします。

司会：次に今年のフィニッシュ時について、実行委員のほうからご説明いたします。

実行委員：

今年のフィニッシュの時間帯、13時頃に大型客船が唐口から入港の予定があります。客船は沖に泊まっているタグボートに誘導されて入ってきます。

我々は宮古口から入りますので、唐口は使用しないので、問題はないと思いますが、

唐口のほうに昨年同様、警戒船、誘導船を置きまして、管制塔の指示に従って皆さんを誘導します。那覇航路も誘導船の指示に従って、横断してください。そして、赤い塔を内側に見て帆走しながら、入港してください。

昨年と同様に波のうえ公園のビーチの処で、帰着申告の際にGPSの機材を返却。それによって、帰着申告完了とします。

昨年の意見交換会で、座間味村の伴走船やサポートボート（他の処からの船も同様）は停泊するところがないので、仕方なく帰らなければならない。表彰式とかに出られないので、那覇にどこか船を置けるところはないだろうか、とのご相談がありました。いろいろ調べたのですが、チーム「ナハナビ」の久場さんのご協力もあって、明治橋の下、那覇空港の反対側に、一般の方でも停泊可能である公共の場所があることがわかりました。40フィートぐらいの船が4～5艇分ぐらいのスペースですが。

ここは那覇港管理組合が管理の場所ですが、予約制ですので、各自連絡を入れ、係留許可などの申請は各艇ごとにお問い合わせ頂き、許可を取ってください。座間味村の船舶課の課長からも、一報入れておいて頂くようにお願いしますが、もし停める予定がある場合は、どうぞ那覇港管理組合の方にお問い合わせください。

レース後、回航している時間がないというチームは是非トライしてみてください。

次に、ヨットをサポートボートに使用しているチームの方々に注意事項があります。これは海上衝突予防法ではなく、航空法による規定で、那覇空港周辺における高さ制限の規定に基づくお願いです。ヨットなど高いマストがある船を伴走船やサポートボートにしているチームがありましたらご注意ください。これは航空法、法律によるものですので、守らなければなりません。ですので、これらに抵触するヨットなどをサポートボートにしている方々は、安全を確保して、唐口から入っていただくのが良いかと思います。

次はゲートの説明をします。昨年から行っていますが、前島の横のハテ島の処にゲートを設けます。ハテ島の灯台を90度で見た見通し線に仮のラインを設定、そこを12時までに通過していない参加サバニ艇は、伴走船に曳航されて帰着申告の場所へ向かってください。（ボードに図を描いて説明）

昨年多くみられた現象で、旗を上げているからでしょうか、実行委員会の警戒船に寄って来てしまい、自らのコースを変えるチームがいますが、自分たちのコースを変える必要ありません。今はGPS上で皆さんの位置をしっかり把握できますので、この見通し線を過ぎたサバニ艇が多くあっても、来年のスターティンググリッドのために、那覇のゴールに近い順番から、我々は計算してポジションを付けられますので、安心してください。

もし、制限時間の午後4時にフィニッシュできそうにないと思われる場合も、本部船、警戒船が那覇側から逆走して、順位を決めていきます。

＊途中入場の「海想」チームの方に再び説明。

実行委員：トップチーム、たとえば、海想チームなどはちょうど、13時ごろフィニッシュの可能性がありますので、あらためて説明します。

参加者：配られた資料のフィニッシュ地点が違うのではないか？との指摘あり。そこで実行委員が確認。

実行委員：申し訳ありません、配布したフィニッシュ地点の案内が間違っておりましたので、正しいものを、ホームページに載せます。ご確認ください。併せて本日お配りした、提出書類、資料などもホームページ上にアップし、ダウンロードできるようにいたします。

参加者：うみそら公園、波の上ビーチに帰着申告ですが、帰着申告の場所などわかりやすくしてほしい。

実行委員：図を描いて説明。

ビーチにはテーブルと、担当者を配置。解りやすくします。また、帰着申告のために、舟底が平らな漁船を用意してありますので、責任の関係で、なるべく艇長が帰着申告をしていただくのが望ましいです。

参加者：艇長はサバニに乗っているので、他の船に乗り換えるのは危険です。

実行委員会：なるべく、ぎりぎり浅いところまで来ていただければ、案内します。

また、応援の方々に加えて、メディアの方々も、こちらの方で出迎える場合が多くなると思いますので、ご協力をお願いいたします。

実行委員：うみそら公園だけでなく、今年は記念すべき20回となりますので、例年通りのとまりん広場での表彰式ですが、広く一般の方々にも一緒に祝ってもらえるように、準備しています。もちろん応援の方々にも加わっていただいて構いませんが。

選手、関係者（すでにパーティ参加代金は申込時に払われている）との区別は、リストバンドなどで、行いたいと思います。

実行委員：今年のトラッキング・システム（船舶位置情報検索システム）について説明いたします。今年は、昨年と違い　「トラック、トラック」というシステムを採用しました。

昨年はサイトに入って、みて頂きましたが、今年はアプリを入れていただくことになります。（配布した資料を提示して）このQRコードを入れていただきますと、画面が出ます。マリリンカップの時に、このような機材を皆様にお配りします。応援の方々にも、お伝えください。そうしますと、レースの様子がリアルにわかり、フィニッシュ後に出迎える場合などに大いに役立つと思います。もちろん、安全対策が第一目的ですが。

実行委員：ドローンでの撮影を許可してほしいとのご意見についてお話しします。

まず、イベント中、イベントの上空は飛べないというルールがあります。座間味村にはケラマ空港があるので、おのずから飛行禁止区域と航空制限区域があります。

ですので、みんなが飛ばしてしまうと収拾がつかなくなってしまいます。そこで、

実行委員会としましては、ドローン撮影のために専門の人間を一人雇います。撮った映像は直ちにアップし、ダウンロードできるようにしますので、それを使ってください。参加者皆さんのチーム独自の撮影は、スタートしてからウシの島の灯台の先から、ナガンヌの手前ぐらいまでは、OKにしたいと思います。那覇の航空管制にひっかかることになりますので、

注意しなめればなりません。これらのことは前日のマリリンカップにおいても同様です。

今までは、実行委員会やメディアのヘリコプターが飛んでましたので、ドローンは禁止でした。今年は少なくとも実行委員会としては、ヘリを飛ばしません。

司会：ほかに何かありますか。

参加者：技術面の質問でもいいですか。ボードに図を描いて質問したいのですが。

二つの帆（たーちぶ）を新たに作ったチームの参加者からの質問。

実行委員会：みんなで議論しましょうね。

参加者：図を描きながら、帆は3，5M×5M以内…、二つに分けました。この下幅は3，8M、３，５Mを超えるんですが…。だめですか？

実行委員：ルール的にはダメでしょう。サバニの帆としてはどうなのか。

参加者：二つの帆の面積を足しても16平米しかないんですけど。

実行委員会：二つに分けたのは、どういう意味がありますか？

参加者：ヨットのジブセイルのような役目です。

実行委員会：どうですか？海想さん、いかがでしょうか？

参加者（海想）：面積だけで考えれば、ルールからでも、いいんじゃないですか？

１7メートルのロープの中にあてはめてみたら…？

実行委員会：もし面積だけでよいとするなら、ハインド―の件はどうなりますか。

最初からずっと同じ形の帆だったのですが、参加者から、サバニの帆としてはおかしいのでは…との意見があり、ルールに則って変えていただいたのですが…。

二つの帆を作った同じ参加者から再び質問。

参加者：舵のことですが、実はティー舵を使っているのですが、昔からある形でロクターという形があるんですけど、補助的に追手の風の時にロープを回して固定する感じ、ワイルドジャイブみたいなときに舵を固定する形…というか、大きい舟扱うときに使うロープの扱い方なんですけど…シードリームの皆さんも大きい舟ですけど、そういうのはいいですか。

実行委員会：それはいいんじゃないですか？どうでしょう皆さん、それについてご意見がありますか。

手を挙げた参加者から発言。

参加者（ハインドー）：ハインド―ですけど…。今年は20回記念なので、実は初心に戻って、元の…昔のセイルに戻そうと思っているんですけど…。

…会場内、どっと笑いが起き、会場どよめく…

実行委員会：セイルエリアが外れていないのであれば、OKではないですか？

舵の件もいいですか？キャパシティをもって、考えましょう。

今年は、どうでしょう皆さん、これでやってみて、不公平が出たら、意見交換会の時に、また話し合うということでいかがでしょうか。

参加者：著しく違わなければ…（一堂、再びどっと笑い拍手が起きる…）

参加者全員：賛成。拍手で……

参加者：ハテ島以外に他の通過点の設置は？ゲートはないんですか。

実行委員会：ありません。そんなにいくつもあっても仕方ないので。ハテ島ぐらいがちょうどコースの半分でしょうか。そこからがきつくなるのですよね。そこまでに12時までに到着しないチームは…その先は厳しいかなと…。

参加者：伴走船のマナーについて。レース艇の前を平気で横切る伴走艇があります。何とかならないでしょうか。個人的に話してもいいですけど、実行委員会でもっと取り締まってくれませんか。説明会や艇長会議に出てないから…聞いてないって言われるんですが。

実行委員：前日の艇長会議には必ず同席してほしいんですが、当日の朝来る船長もいるので、なかなか徹底しない。船長に必ず読んでもらいたい要望、注意事項などを盛り込んだ書類を作って、必ず目を通してもらいましょう。船長が来れなければ副船長とか、責任のとれる人間に来てもらいましょう。違反しても、伴走艇にどんなペナルティを与えられるか、今んとこ分からないけど…。

参加者：参加申込書を見ると、チームのリミットは艇長含めて13名ですか？

Tシャツなど欲しいんですけど。

実行委員会：そんなことはありません。チームの選手数に制限はありません。3000円かかりますが、選手登録してください。そうしたらシャツは…差し上げます。

参加者：ライフジャケット。桜マークのライジャケの件で伺いたい。

実行委員会：参加資格の中にも、ルールの中にも、桜マークのものを必ず着用とは謳ってません。サバニは動力船ではないので、必ずつけなければならないということもないのですが、我々の大会の参加資格では、安全のために着用の義務をルールで規定しています。

例えば、ヨットレースやオリンピックのヨットレースで、海外から参加している選手は桜マークのライジャケを必ずしも付けているわけではないですから。海上保安庁からも指導を受けていますが、サバニに関しましても、同様な考え方であるということは保安庁の方にも申し入れてあります。

但し、伴走船が動力船の場合、大会のルールでも選手が全員収容しても大丈夫な装備という規定があるので、人数分のものが用意されているはずです。動力船に乗ったら、その規定に従う。それ以外のことは個人で、或いはチームでの判断です。いずれにしても命を守るという観点から判断してください。

参加者：フーザンの件で質問したのですが。袋状のもの。ヨットのような端っこだけポケットの中に入ったものなど見かけますが、あれはいいのですか？

実行委員会：確かに、ルールを守らない艇がありますね。セイル…帆はフルに上げないとわからない場合もあって…。走りださないとわからない場合もあるんですよ。性能は悪いけど、いいと思っている場合もあるけど。注意を出します。サバニではないですよね。

参加者（ビルダー）からの意見、

高良さん：伊江島の形を参考にしていたんですけど。（船大工の）清さんが50年前の帆を解体したら、昔のほうが斬新で、工夫されているということが分かった。フーザン、袋状にしたって、サバニは走り切れないから、心配することもない…って。

実行委員会：命をバテンポケットみたいになっているのはNGです。実行委員会の考え方としてはなるべく、昔のやり方、昔の海人のやり方になるべく忠実に…と思っていますが。

参加者：帆の材質、ナイロンはいいのか。明らかにおかしいのがあるけど…

実行委員：フィルムはだめですけど、織ってあるものならOK ダクロンはOKです。

参加者：このT-シャツのデザインが好きでよく着ていたんですけど、こういう化繊のものは洗濯の際、今問題になっているマイクロプラスティックのことが気になって、今日久しぶりに着たなって感じなんですけど。要するにプラスティックの粒が河川に流れ海に流れ込むということで…。暫く着なかったんですが…。運動するときはやはり化繊のものを着たがるのか

もしれませんが、この大会の趣旨からすると…反するのでは…と。天然素材のものにゆくゆくはした方が、いいのではと思って…。

実行委員：はい毎回、考えています。悩んでいます。しかし、どうしても、予算の都合で、難しい。木綿100％でもなく、利便性を考えて…、この沖縄の気象に合った素材に…ということで、落ち着いてしまいます。理想です。出来たら、そうしたいと思っています。

実行委員会：昨年の意見交換会で要望があったフライヤーを作りました。ポスター以外にも皆さんもたくさん持って帰って、配ってください。

実行委員：フライヤーの内容の訂正があります。裏面の真ん中あたりの「…うみそら公園から観覧できます」の処の那覇海上保安部交通課は削除してください。

司会：ほかにご意見がある方がいらっしゃらなければ、この場を締めさせていただきたいと思います。それでは2019年度「第20回サバニ帆漕レース説明会」、これにて終了とさせていただきます。

実行委員一同：本日はお忙しいところ、お集まりいただきまして、ありがとうございました。